

アメリカ・日本・アジアのはざままで

～日本語教育者・長沼直兄の 「激動」の戦前／戦中／戦後

平成23年度

東京外国語大学附属図書館講演会

日時：12月9日（金）16:00～17:30

会場：研究講義棟101教室

（マルチメディアホール）

協力：本学国際日本研究センター



『標準日本語讀本』や『First Lessons in Nippongo』で知られる
長沼 直兄（なおえ）（1894～1973）

戦前・戦中に書かれたこれらの日本語学習書は、戦後にも広く使われ版を重ねます。アメリカとの人的つながりの中で日本語教育者としてのキャリアを積んだ長沼は、戦中の「東亜の共通語」としての日本語普及政策にもしなやかに対応しました。

国策と日本を取り巻く国際社会が大きく変わるなかで、日本語教育への変わらぬ情熱を注ぎ続けた長沼の仕事を取り返りながら、外国語話者へ日本語を教えることの意味を考えます。

日本語教育を支える理念や目的意識と社会との関係、歴史的社会的状況の言語教育の思想や現場への表れ、教育内容や教授法と教育理念との関係などを、日本語教育の歴史を通して研究している。

（財）国際学友会日本語学校、中国・西安交通大学外語系日本語科、東京農工大学留学生センターを経て、2004年度より本学教員。

同年より、財団法人言語文化研究所（現・長沼スクール）の所外研究員を務める。

【主な著作】

『三十一文字の日本語—現代短歌から古代歌謡へ—』 おうふう、共著、2000年

『戦時体制下の農業教育と中国人留学生』 農林統計協会、共著、2003年

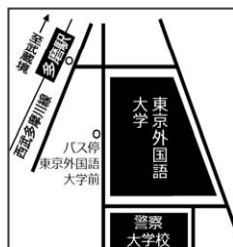
『非漢字圏留学生のための日本語学校の誕生—戦時体制下の国際学友会における日本語教育の展開—』 港の人、2006年

『国際学友会「日本語教科書」全7冊合本1940—1943』 港の人、編著、2006年

『日本語教育と戦争—「国際文化事業」の理想と変容—』 新曜社、2011年（近刊）



講演者：河路 由佳
本学大学院総合国際学研究院教授
（日本語教育学）



【アクセス】
西武多摩川線「多磨駅」
下車 徒歩5分

【お問い合わせ先】
附属図書館総務係
TEL: 042-330-5193
E-mail:
toshou-soumu@tufs.ac.jp

附属図書館特別展示

戦前・戦中・占領期 激動の時代の日本語教育
—長沼直兄の仕事を中心に—

11月18日（金）～12月25日（日）まで開催中
（11/19,20,23, 12/23を除く）

【場所】
【展示時間】

附属図書館2Fギャラリー
平日 9:00-21:45（11/18,21,22,24 は17:00 まで）、
土日13:00-18:45（入館は終了15分前まで）

